

全国トップレベルを目指す者の意識調査

～ 全国トップレベル選手と山形県トップ選手との意識調査 ～

山形県高等学校体育連盟 研究部

全国トップレベルを目指す者の意識調査

～全国トップレベル選手と山形県トップ選手との意識調査～

山形県立山形西高等学校

村上周市

1 はじめに

全国高校総体における山形県の入賞者数はH17年度に29、H18年度には31そしてH19年度は36と順調にその数を増やしている。県高体連として平成14年に制定した、山形県高体連競技力強化5カ年計画が着実に遂行されてきた結果と考えられる。山形県全体の競技力向上を支える基盤となる高校生年代の活躍は「スポーツ山形」をより強いものとするための重要な要素である。その競技力向上をはかる手段として、環境的要因、人的要因、経済的要因などあらゆる要因が関わってくるが、本研究ではその中で人的要因における「意識」という点に注目した。常に日本のトップレベルの成績を収めるチームには、その強さの背景として練習環境、指導体制、学校側の協力など様々な要因が考えられる。その中で選手、指導者があらゆる局面に関してどのような意識を持って取り組み活動しているか、全国トップレベルチーム選手、指導者の意識レベルでの要因を探り、トップレベルチームの勝利のとらえかた、練習に対しての意識などを明らかにし、また本県チームとの比較をすることから、本県チームがさらなる全国上位を目指すための指針を示すためのものである。

2 研究の方法及び対象

(1) 質問紙によるアンケート調査(無記名方式)

(2) 調査対象

①H18年度全国高校総体優勝、準優勝チームのエントリー選手、指導者。(依頼80部)

②H18山形県高校総体ベスト4以上チームのエントリー選手、指導者。(依頼127部)

③対象競技としては、全国高校総体にて団体競技としてあるもの。

④回答総数 選手1064名、指導者132名

⑤回答率 県外チーム67.5% 県内チーム72.4%

(3) 調査期間 平成18年10月～11月

3 調査の結果と考察

(1) 選手アンケートについて

22の質問項目を以下の4つの項目に分け分析し、その中で注目すべき項目を本資料に掲載した。

① 部活動における自己管理 ② 目標に関する意識

③ 練習に関する意識 ④ 勝利への意識

(2) 指導者アンケートについて

22の質問項目を以下の3つの項目に分け分析し、その中で注目すべき項目を本資料に掲載した。

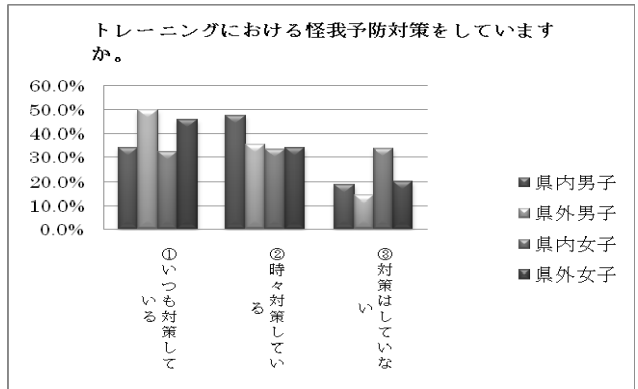
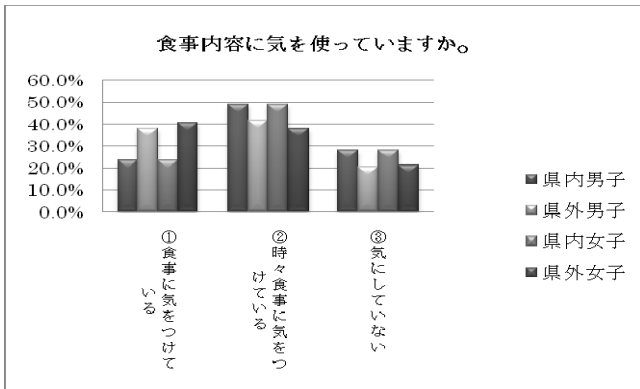
① 活動の現状

② 目標に関する意識

③ チーム運営

(1) 選手アンケート

① 部活動における自己管理



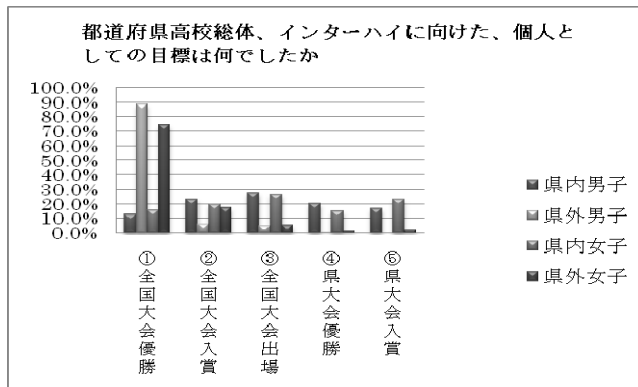
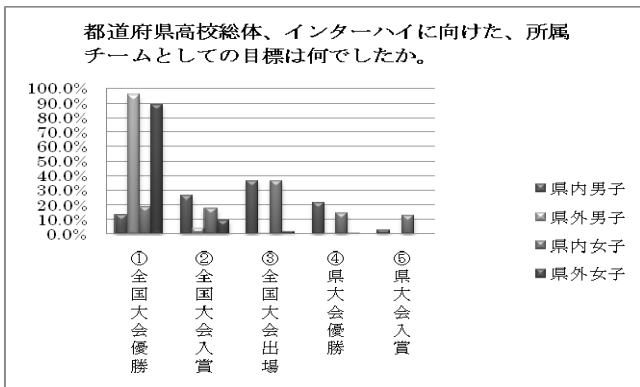
ア. 「食事内容」

県外選手（男女）は、食事に気を使っている選手が県内選手よりも多く、栄養とトレーニングの関係を理解し、高い意識を持って実践している選手が多いと窺える。また、自己管理がしっかり行われていること、家庭の協力あって意識した食生活が行われているのではないだろうか。

イ. 「怪我予防対策」

県外（男女）の選手が県内（男女）の選手よりも怪我の予防について対策をとっていることがわかる。対策をしていないという項目において、県内女子の割合が比較的高い。怪我の予防対策についての意識を高めることも必要であると考えます。

② 目標に関しての意識



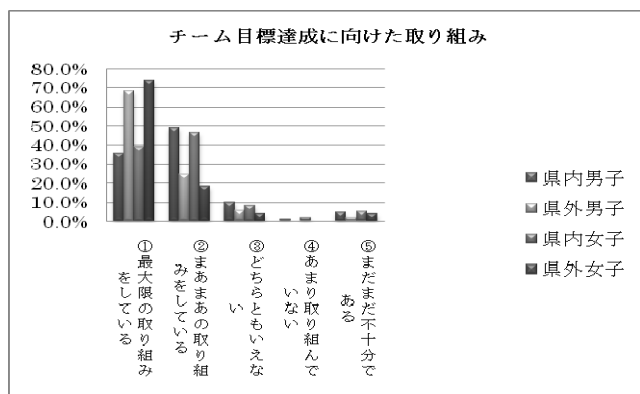
ア. 「チームとしての目標」

県内（男女）選手と県外（男女）選手との大きな違いが見てとれる。県内の選手は「全国大会出場」を目標としているところが一番多かったのに対して、県外の選手は90%を超えるチームが「全国大会優勝」を目標としている。県内チームは、「全国大会出場」を目標とするだけでは、全国大会に出場したことで満足してしまい、良い結果を残すというところまで至らないのではないかと考える。この意識の高さが全国大会で上位の結果を残せるポイントではないかと考える。

イ. 「個人としての目標」

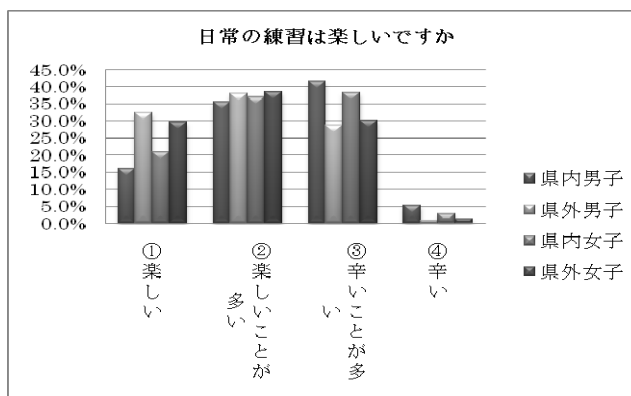
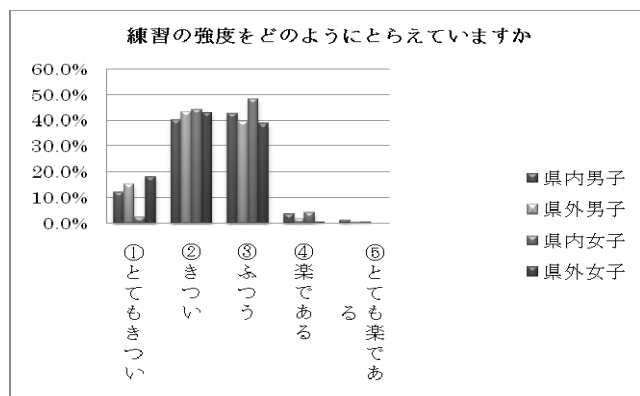
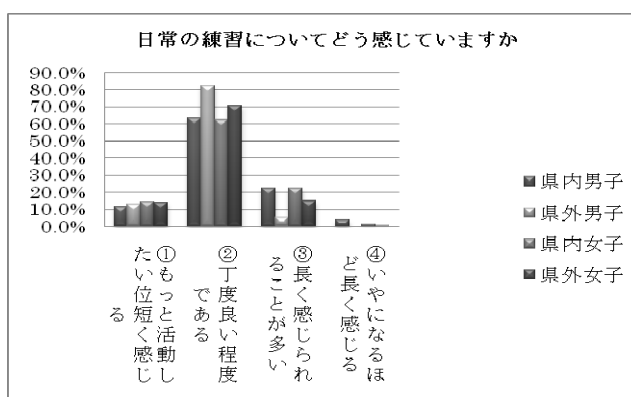
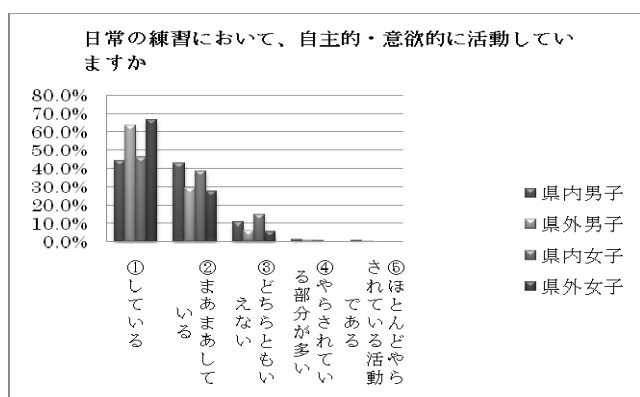
県内選手（男女）について、所属チームが全国大会出場を目標としている割合が高いのに対し、個人の目標については、全国大会出場を目標としている選手が減り、県大会入賞を目標としている選手が増えている。指導者の目標設定と選手が認識する目標の差が見られる。

ウ. 「チーム目標達成に向けた取り組み」



県外選手（男女）に関しては、「最大限の取り組みをしている」という割合が高いのに対し、県内選手（男女）に関しては「まあまあの取り組みをしている」という項目の割合が高い。目標に対しての取り組みの意識の差が見られる。

③ 練習についての意識



ア. 「自主的・意欲的な活動」

日々の練習において自主的に活動している割合は県外選手（男女）のほうが多い。

イ. 「練習時間」

丁度良く感じている選手が県内、県外男女ともに多いが、県内選手の「長く感じる」の数値が少しではあるが高い。

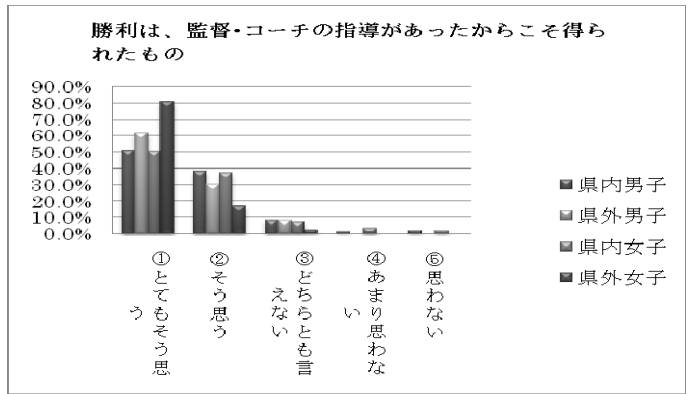
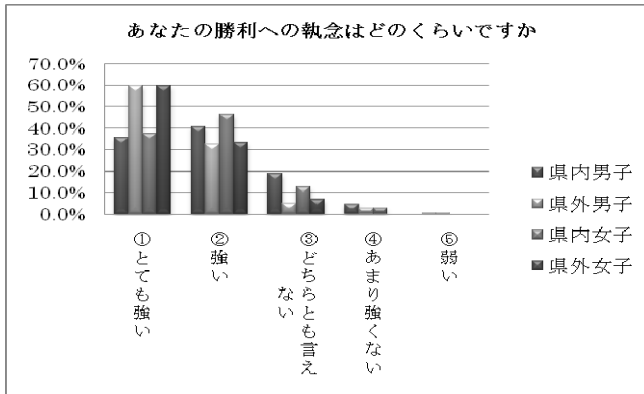
ウ. 「練習強度」

日々の練習が、「とてもきつい、きつい」ととらえている割合が、県外選手（男女）、県内男子、それぞれが60%を越える中、県内女子選手における「とてもきつい」というかとらえている割合が3%と低い。

エ. 「楽しさ」

練習内容がハードである一方で、県外選手（男女）は、楽しさを感じて取り組んでいる生徒が約70%を占める。その要因として、辛い中にも技能向上などの充実感、ハイレベルな環境で練習ができる喜びなどを感じながら練習に取り組んでいることなどが推測される。

④ 勝利への意識

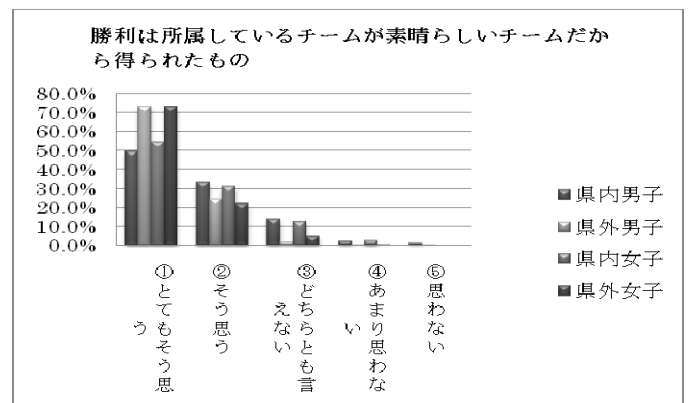
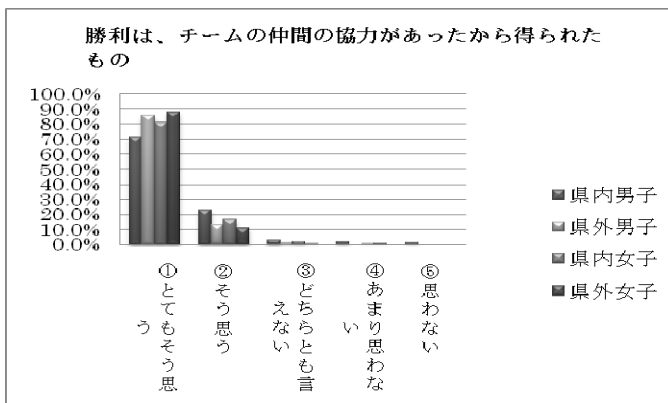


ア. 「勝利への執念」

「とても強い・強い」の合計は、県外選手 90%超、県内選手 75~80%と数値は大きく開いていないように感じるが、そのうち「とても強い」に限定してみると、県外男女は 60%に近い数値を残しているが、県内選手は 35%前後の数値となっている。県外選手と県内選手の差の一つのポイントなる項目である。

イ. 「勝利の要因は監督・コーチの指導」

「とてもそう思う・そう思う」は、県内選手（男女）で 90%弱、県外選手（男女）では 90%を超えている結果となった。指導者の指導力、選手との強い信頼関係が窺える結果である。特に県外女子については「とてもそう思う」のみで 80%を超える数値となり、逆に県内女子の約 50%と比較すると、女子における指導の選手の受け止め方の違いが見える数値だと言える。



ウ. 「勝利の要因は仲間」

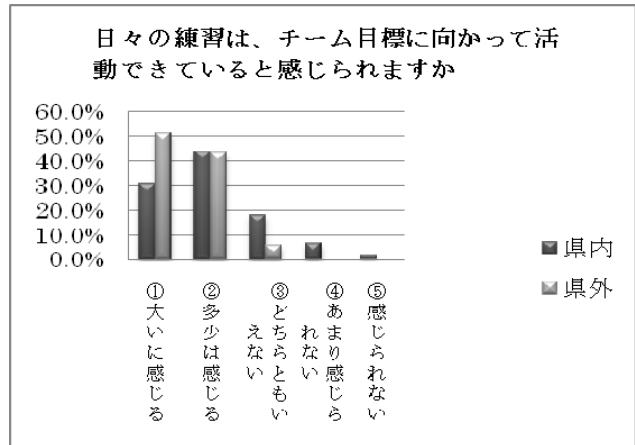
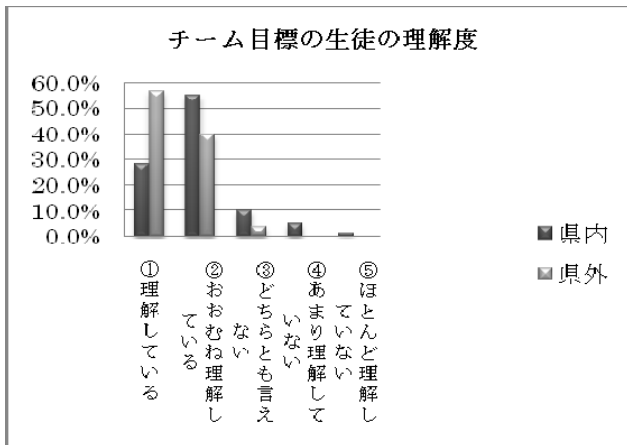
県内選手（男女）、県外選手（男女）ともに「とてもそう思う・そう思う」が高い数値を示している。チームメイトとの信頼関係、チームワークの重要度等、チームへの帰属意識が高いレベルであることが推測される。

エ. 「勝利の要因は所属チーム」

「とてもそう思う」は、県外男女の約 73%に対して県内男女 50%前後と大きな差が見られる。ウ「勝利の要因は仲間」の回答では、「とてもそう思う」を県内男子約 70%、県内女子 80%が「メンバーの協力があってこそ」という結果を出したが、「自分のチームは素晴らしい」と回答できる選手は半数程度と相関が見られない。チームの仲間のサポートの協力があることと、自分のチームが誇れる素晴らしいチームであることとに認識の違いが見られる。

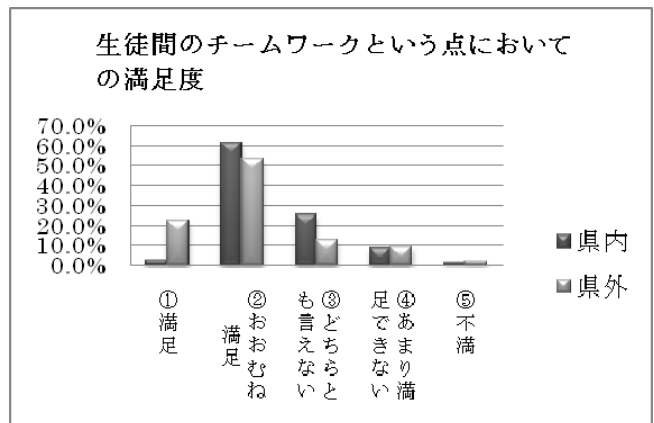
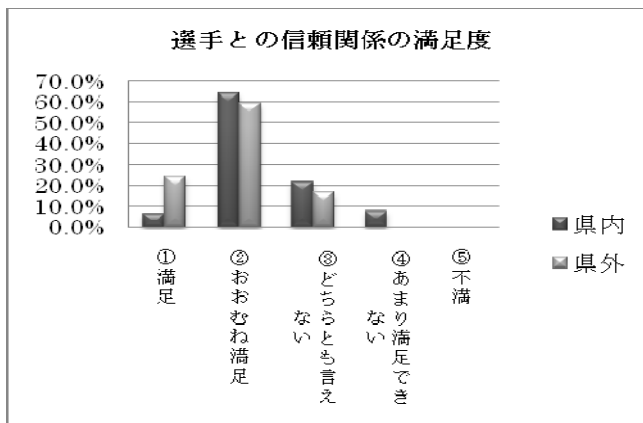
(2)指導者アンケート

① 目標に関する意識



指導者から見た「チーム目標の理解度」並びに「その目標達成に向けた活動」について、県外チームは50%以上がよく理解し、よく活動に励んでいるという結果が出たが、県内チームでは30%程度となった。この数字の背景にあるものが全国トップチームと県内チームとの差の要因の一つと考えられる。

② チーム運営



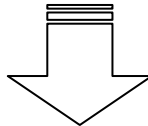
「生徒間のチームワーク」では「選手との信頼関係の満足度」と似たような傾向が見えている。県外の全国トップレベルのチームでは22.2%に対し、県内チームでは僅か2.6%の「満足度」でしかない。

まとめ

全国トップレベルチームと県内チームを比較すると次のようにまとめることができる。

	全国トップレベルチーム	県内チーム
目 標	全国優勝がほとんど。	全国出場が多い。
練 習	・目標達成に向け意欲的。 ・辛い中にも楽しさ。	・目標とそれに向けた活動とにギャップがある。 ・辛いことが多い。
勝 利	・強い執念 ・所属しているチームが素晴らしい。	
チームワーク	満足	概ね満足
指導者と選手	強い信頼関係	

以上のことから、県内チームが、全国トップレベルチームに近づくためには



県内指導者への提言

1. 指導者と選手との強い信頼関係の構築
指導者と選手が、高いレベルで通じ合うことができるか。
2. 目標に向けた活動の意識付け
どれだけチーム目標を選手に意識させ、それに向け意欲的に練習することができるか。またそれを指導できるか。
3. チームとしての強い意識
所属しているチームが誇れる集団となれるチーム意識。それを構築していくことができるか。

以上、全国トップレベルチーム選手・指導者と山形県チーム選手指導者との比較のなかで示すことができた指針である。競技力の向上をはかるには様々な要因が関わってくる。その中でも上記の3つの指針は、指導者、選手の意識レベルでの基盤となるものではないだろうか。これを実践していくことこそ、より高いレベルへの始めのステップであると考え。